

### みんなでつくる「地域の学校」

○教育の目的…「人格の完成と社会性の育成」

＜教育基本法 第1条（教育の目的）＞

教育は、人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

#### 【白山中校歌】

- 「**純乎志操**」…心情・行動などが、まじりけがなく純粋で「志」がぶれない。与えられた人生において、己のためだけでなく、多くの人々のために、そして世の中のために、大切な何かを成し遂げようとする固い決意を持つ生徒の育成。
- 「**一人の友も置き去らじ**」…仲間と共に学び、共に成長（＝変化）することを大切にし、できないことやわからないことを一緒に解決しながら一人も置いていかないという熱い気持ちを持っている生徒の育成。
- 「**忍と耐**」…ただじっと我慢しながら耐えるのではなく、目の前の問題にしっかりと向き合い、逆風に負けず、仲間と協働しながらその解決に向けて一歩でも二歩でも前に進もうとするしなやかさ、力強さを持っている生徒の育成。

学校に関わるすべての人が、校歌に塗り込められた思いを具現化しながら、生徒は「学び」を通して、教職員は「教育」を通して、保護者は「子育て」を通して、地域の方は「地域貢献」を通して自己実現することができる、**笑顔満載の「地域の学校」**をつくりたい。

学校に関わるすべての人が、それぞれの「学び」によって「変化（成長）」し、教職員が、保護者が、地域の方が、生徒のモデルとなり、「学ぶ」ことそのものに楽しさを感じながら成長できる、**楽しさ満載の「地域の学校」**をつくりたい。

10年後、20年後、30年後、生徒が大人になり、地域の担い手となったとき、中学校時代が心の支えとなり、自分の子供や自分の仲間に「私の母校は、本当にすごい学校だった。みんなで支え合い、本当にやりたいことを一生懸命やることができる楽しい学校だった。」と胸を張って語れる、**誇り高き「地域の学校」**をつくりたい。

本校は、市内の中学校で最も若い学校である。若さとは、可能性・希望である。それ故、学校に対する地域の方々の思いも深い。その力を活かし、独りよがりではない、みんなでつくる「地域の学校」にしていきたい。そして、本校に関わった人達が、様々な「学び」を通して、「楽しくてしかたがない」と感じ、「学び合いたい」「誰かの役に立ちたい」「この人に力を貸したい」「助け合いたい」と考え、表現し、一歩踏み出し、行動することができる、そんな**リーダーシップ溢れる「みんなの学校」**をつくりあげたい。それが校歌の歌詞に塗り込められた学校に対する開校以来の地域の熱い思いに込めていくことでもあると考える。以上のことを踏まえ学校教育目標を次のように設定した。

## 【学校教育目標】

「みがき合い・支え合い，心豊かでたくましく生きる生徒の育成」

### 【学校教育目標とは】

目的と目標は違う。目的とはぶれない軸であり、理想である。目標は、目的のために達成すべきゴールである。本校が目指す学校教育目標は、中長期的な目標であり、学年や学級、各分掌、諸活動等、校内の全ての教育活動が目指す目標となる。それぞれが掲げた目標には、達成できたかどうかの指標が必要となる。それを意識しながら本校の教育活動を進めていきたい。

#### ○ 目標設定の背景

高度経済成長時代が過ぎ去り、長い低成長時代に突入して久しい。消費時代の人材育成は、マニュアル型の人材である。言われたことをとことんやり抜くバイタリティ溢れる人材が望まれた。その後は、Reduce:リデュース（減らす）、Reuse:リユース（繰り返し使う）、Recycle:リサイクル（再資源化）の時代を迎え、スパイラルな持続性を工夫する人材が望まれるようになった。

バブルの頃は国民みんなが幸せになることに一生懸命であった。でもバブルがはじけた後は、「幸せになる」時代から「幸せを感じる」時代への変化が起きてきた。特に3.11東日本大震災では、30年かけて起こる変化が1年で起こってしまったといわれるほど大きく変化した。日本人の精神性が問われてきた。本来、人間の脳に書き記されている「誰かのために何ができるか」という分かりやすい問いかけをどう行動化できるかが試されてきたのである。

成熟社会を迎えた今、答えのない難しい課題に対してもしっかりと問題に向き合い、自ら適切に判断し、最善の行動をとれる生徒に成長して欲しい。自分が所属する集団をより向上させられるようにみがき合い、支え合う経験を通して、相手の気持ちを考えられる生徒を育てていきたい。

人は一人では生きられない。人とつながり、自然の中で生かされている。誰でも人のため、社会のために、自ら果たすべき役目を持っている。そして、生かされていることの意味を考え、その役割を果たすことで自分の良さが発揮されるのである。家族という小さな社会から国家、世界という大きな社会まで人が所属する集団は様々である。その中であって、人とつながり、助け合い、改善のための一步を踏み出すことが、よりよく自分の役目を果たすことになる。人のために自分から一步踏み出し、自分の役目を果たせる人材を育成することは、リーダーシップ教育を推進し、主体的に行動し、所属する集団に貢献できる生徒を育成することである。そして、「知・徳・体」のバランスのとれた教育活動を推進しながら「考えること」や「思いやること」、「表現すること」「行動すること」に重点をおき、「みがき合うこと」「支え合うこと」「思いやること」を意識し、「主体的・対話的で深い学び」を通じた地域の人材の育成に努めていきたい。

○ 指導方針 「信じる」

勉強したい、わかりたい、楽しい学校生活を送りたい、認めてもらいたい、友達とがんばりたい、よくなりしたい、どの生徒も心の中で本気で願っている。しかし、それを素直に表せず、嫌な自分を出すことでしか表現できない生徒も少なからずいるものである。生徒が持つ可能性を引き出すには、ひたすら話を聴くこと、質問することである。一方的に話を入れるだけでは、思いや行動をうまく引き出すことはできない。「傾聴、質問、承認」による「自己決定&行動変容」が、ゴールに向かう生徒を支援する基本姿勢と考える。

「笑顔」と「対話」がカギである。

相手をコントロールしようとする結果だけが浮き彫りになり、互いに苦しくなるが、相手を理解しようとするれば、解決策が見えてくるものである。

例えば、授業中に保健室に逃げていく生徒がいるとき、教室に戻すことだけを考えて「早く教室に戻りなさい！」という相手をコントロールする言葉が出てしまう。しかし、生徒がそれに従わないと両者の関係が苦しくなる。

「彼が保健室に逃げ込むのは、なぜだろう？授業がわからないから？先生が嫌だから？親にガミガミ叱られたから？友達とけんかしたから？保健室に気になる女子が来るから？」と考えれば「どうしたの？」という質問から関わりがつけられ、生徒に寄り添う余裕が生まれるのである。「生徒指導が生徒理解で始まり生徒理解で終わる」と言われる所以である。

教師は専門職である。教育を生業とする専門家がまずやることは、生徒と教育ができる関係を築くことである。どんな金言もその関係がなければ、入っていかない。逆さまになっているコップの中には何も入っていかない。そればかりか、入れようとした水が周りに飛び散り、周囲まで汚す結果となる。まずはコップを上に向けることである。

では、教育ができる関係はどのようにしてつくられるのだろうか。第一にどの生徒も好きになることである。好かれようとする教師ではなく、好きになる教師を目指さすことである。教師も人間である。そりの合わない生徒もいる。好きになれない生徒もいる。それでも好きになる努力をする教師にはなれる。それは、その生徒の良さを見つめること、「美点凝視」である。一生懸命認めることである。好きになる努力とは、相手の良いところを見て、心に留め、言葉にすることである。そして必ずできると信じることである。

「純乎志操」の学校に罵声や恫喝はいらない。生徒の正面に立ち、上から見下ろしながら対峙する姿で終始してはならない。最後は、生徒の脇に立ち、穏やかな声で相手の気持ちを聴き続け、理解し、どうすればよいかを一緒に考える指導こそ「忍と耐」の学校が生徒を支える姿である。手間暇かけない指導はプロ教師の仕事ではない。「傾聴・質問・承認」というコーチングスキルを駆使し、ゴールを設定し、必ず行きつけることを信じ、「一人の生徒も置き去りにしない」という熱い思いと信念が指導・支援には必要なのである。

○「目指す生徒像」

- ・自ら学び,思考,表現する生徒
- ・情操豊かで品位がある生徒
- ・思いやり, 助け合える生徒
- ・健康でたくましい生徒

どのような状況下でも「生き抜く力」を身につけなければならない。そのためには「的確に判断」することを日常的に練習しなければならない。生徒自ら必要な情報を収集し、自己決定できるような場を意図的に設定し、指導・支援し続けることが教師の仕事である。

知ること、覚えること、行動すること、考えることをバランスよく行わなければならない。教師が知識の切り売りや教え込みに終始しては、行動することも考えることもできない。それを辛抱強く待つことも教師の仕事である。

「表現」というのは、「思い」を可視化することである。3. 1 1の後、ACのコマーシャルに宮澤章二さんという高校の先生の「行為の意味」という詩が取り上げられた。「心」を「心遣い」に「思い」を「思いやり」という、目に見えないものを行為という可視化できるもので表現する。「みがき合い、支え合う」という「愛」を行動で表現することができる心の豊かさと品位を目指させたい。見えないものを見えるようにするのも教師の仕事である。

全ての教育活動には、それを支える生徒の「元気」が欠かせない。自分の思い通りにならない中でさえ、よりよい方向性を探る強さを持ち、身体が元気、心が元気な強い生徒を目指していけるように支援していきたい。

一人一人の生徒が持つ見えない可能性を目に見えるように引き出すのが教師の仕事である。

○「求める教師像」

- ・白山中が一番好きな教師
- ・信頼関係がつけられる教師
- ・生徒の気持ちが分かる教師
- ・学び続ける教師

専門職としての教師は、教育ができる関係を生徒と築かねばならない。その第一歩が理屈抜きで好きになることである。「うちの学級の生徒が一番好き」「うちの学年が一番好き」「うちの学校が一番好き」「うちの地域が一番好き」と思えば、一生懸命働きかけることも、寄り添うこともできる。しかも「教師という仕事が一番好き」になったときに、自分自身を大切に、周囲に思いを馳せることができるのである。

「この生徒」「この学級」「この学年」「この学校」「この地域」のようにいつも自分を外に置いた表現をしている教師ではなく、「うちの〇〇」と表現し、向き合うことができる教師でありたい。

言葉は「言霊」である。言葉の持つ力を意識し、「うちの〇〇が本当にスゴイ！」と思えるものを毎日認められる教師になりたい。良いレッテルを貼れる教師でありたい。それが信頼関係を築くことにつながる。信頼感を得るための「笑顔」「傾聴」「秘密」「約束」「プロ意識」「言行一致」「アイメッセージ」「謝罪」といった基本アイテムを身に着けた教師が求められるのである。

勉強がわからないまま1時間黙って座っている生徒の気持ち、自分ではどうにもできない家庭環境にある生徒の気持ち、みんなと同じように動くことができない生徒の気持ち、そういう生徒の気持ちをわかろうとする教師でありたい。漢字を覚えたくないわけじゃない。遅く走りたいわけじゃない。下手な絵を描きたいわけじゃない。親に口答えしたいわけじゃない。悪くなりたいわけじゃない。学校を休みたいわけじゃない。頑張りたい。一生懸命やりたい。勉強が、運動が、学校生活が、楽しいと思いたい。このように子供たちが毎日訴えていることを察することができる教師でありたい。

時間が過ぎても平気で授業を続ける教師は、子どもの気持ちが分からない。時間を守れない教師は、相手のことを考えていない。「時間」＝「命」である。「時間」を守るということは、「命」を大切にすることである。時間を守ることから始めたい。

教師は専門職。教育のプロ、教えるプロ、育てるプロでなければならない。生徒・保護者・地域の願いに応えるプロ教師でありたい。プロとは、その道に熱を持って取り組み、自己実現する人である。教育で自己実現できる教師でありたい。それには、プロ教師として基本スキルを身につけなければならない。教科指導スキル、道徳指導スキル、学級指導スキル、生徒指導スキル、特別支援教育スキル、教育相談スキル、部活指導スキル等を身につけなければならない。基本スキルのみならず、教師の人間性も高めなければならない。EQを高めること、コミュニケーション能力を身につけ、人と人をつなぐNQを高めることを意識していきたい。教師生活を終えるその日まで感性を磨き、学び続ける熱を持てる教師でありたい。

#### ○「重点目標」

- |             |
|-------------|
| (1)「ブランド構築」 |
| (2)「研究&課題」  |
| (3)「連携推進」   |

##### (1)「ブランド構築」

白山中のブランド力を上げていきたい。「ブランドづくり」＝生徒や保護者、地域の心の中に、質を超えたポジティブなイメージをつくり、感情的なつながりをつくることである。「白山中のイメージは？」と聞かれたときに「生徒の主体性が伸びる学校」「学力が高く、私学以上に品のある学校」等があげられ、生徒も教職員もプライドがくすぐられ、更なる相乗効果をもたらすのである。

そこで、以下の各項目を今年度の重点とし、職員、生徒、保護者、みんなで取り組んでいきたい。

- ① 授業改革（主体的・対話的で深い学び）…改善ではない本気の改革！
  - ・ 「教える」→「学ぶ」、「～させる」→「～する」への意識改革！
  - ・ 課題を明確にし、思考をつくる「問い」に拘る！
  - ・ 他者との対話の場面を短時間でも必ず毎時間設定する！
  - ・ 何がわかったか、何ができるようになったかを明確にする！
  - ・ 思考が見える板書計画，ノート指導！
- ② 心の教育（道徳、いじめ、生命、思いやり）…道徳科として取り組む！
  - ・ 教科としての標準時数35時間の確保！
  - ・ 22の価値項目の完全履修と実態に即した価値項目の重点化！
  - ・ 考え議論する道徳のための主発問づくり！
  - ・ インクルーシブ教育の研修と基礎的環境整備，合理的配慮の実際！
- ③ 安全安心（体力向上，メンタル，防災，食育）…指標を設定する！
  - ・ 運動能力章受章者数の目標値設定と体力向上支援の具体策構築！
  - ・ 不登校率ゼロへの挑戦，欠席3日/月の報告と対策会議の開催！
  - ・ 教育相談の改善と居場所づくり！
  - ・ いじめゼロへの挑戦，アンケート（1回/月）と生徒活動の連携！
  - ・ 小中連携による地域防災訓練の実施，避難所開設訓練の実施！
  - ・ 食事改善による低体温生徒の一掃！
- ④ 生徒主体（行事，生徒会，部活）…放任ではない生徒主体の活動！
  - ・ より明確になるように行事のねらいを再考する！
  - ・ 各活動のゴールを可視化し，マネジメントサイクルを確立する！
  - ・ 生徒会活動，委員会活動における生徒主体の組織運営の推進！
  - ・ 学校経営への生徒の参画意識の確立！
- ⑤ 三大伝統（挨拶，歌声，清掃）…可視化された具体的な取り組み！
  - ・ 「明るく元気な挨拶」→オプション付きの挨拶（笑顔・会釈・+α）
  - ・ 「美しく響く歌声」→聴く者の感動を湧きあがらせる全校合唱
  - ・ 「心を磨く清掃」→そこを使う人の心を動かすような真剣な清掃

## （2）「研究&課題」

教職を生業としている教育のプロは、常に教育で自己実現できなければならない。プロ教師としての高い専門スキルを維持するためには、学び続ける必要がある。以下の研究と課題に主体的に取り組むことから始めたい。

### ① 研究テーマ

「自ら共に学ぶ生徒の育成」  
～主体的・対話的で深い学びの実践を通して～

- ・「主体的な学び」とは？「対話的な学び」とは？「深い学び」とは？  
研究により白山型の「学び」を発信していきたい。
- ・授業改革の視点で校内研究を捉え、個々の授業スキルの向上を図る。
- ・教科部会でとどめず、全校体制で研修を深める。

② 課 題…「わかる・できる授業」

「インクルーシブ教育」

「考え議論する道徳」

- ・授業評価を通して、生徒のわかった感やできた感が高まるように授業そのものの見直しを短期周期で行う。
- ・外部講師をできるだけ招聘し、改善のための切り口をできるだけ多くする。
- ・課題をできるだけ生徒と共有し、一緒に改善する。

③ 改 善…※授業改革のためのOJT

※生徒指導方針と具体的な手立ての徹底

※長欠率の引き下げ

※いじめのない学級経営とQ-Uの活用

※部活動指導の共通理解

※業務改善

- ・学習指導要領改訂に伴う趣旨・内容項目・指導法等に関する最新情報の積極的な共有。
- ・早めの「報告・連絡・相談」によるリスク管理の実践。
- ・危機管理の原則「さ・し・す・せ・そ」を意識し、実践する。  
→ 丁寧迅速な初期対応 → 「今日行く（教育）」

(3) 「連携推進」

学校だけで生徒を教育できる時代ではなくなった。東日本大震災が私たち日本人に与えた打撃は、途方もなく大きいですが、気づかせてくれたものも沢山ある。大切な人が亡くなることの悲しさ、絶望感、つながる力の大切さ、礼儀、思いやり、行動することの大切さ、数え上げればきりが無い。中でも「生き抜く力」や「つながる力」は生徒が身につけなければならない大切な力であるということ再認識させられた。「みがき合い、支え合い、心豊かでたくましく生きる生徒の育成」のためには、地域の力を学校に入れ、みんなで生徒に関わることが必要である。学校ができること、家庭ができること、地域ができること、三者がそれぞれ連携してできることを考え、取り組むことが大切である。

子どもが少なかった江戸時代は、みんなで子育てをした。「子は宝である」というのもそういう江戸時代の少子化が背景にある。現代は、原因こそ江戸時代とは異なるが少子化傾向に拍車がかかっている。江戸時代のようにみんなで子育てしなければ、地域や国が守られない時代になってきている。

そこで保護者や地域、関係機関をどのように入れるのか、カリキュラムをどう位置づけるのかを考え、継続的に実践していきたい。それにより人材を育成するスパイラルがつくられてくるのである。そこから確固たる「郷土愛」が育まれていくものとする。そこで以下の連携を計画的に進めていきたい。

- ① 小中連携…小中一貫授業、部活、児童生徒活動、生活指導等
  - ② 中高連携…高校訪問、高校説明会、中高特別授業
  - ③ 家庭連携…保護者会、PTA活動、部活後援会、家庭教育、情報発信
  - ④ 地域連携…学校評議員会、学校支援ボランティア、地域防災訓練、ミニ集会
  - ⑤ 諸機関連携…行政機関、児相、医療、警察等との連携
- 「学校経営基本構想」を具現化するために、次の3つを意識したい。
- ・本校で実践されるすべての教育、分掌活動等に関わる具体的な方策は、この「学校経営基本構想」を受け、教育目標が具現化されるように担当者を中心にチーム対応しながら進めていきたい。
  - ・朝礼やホームページを活用し、「構想」等を生徒・保護者・地域に発信し、共有していきたい。
  - ・地域人材ボランティアを含め、できるだけ多くの人材を校内に入れていきたい。
- チームになるために、次の3つを実践したい。
- ・チームが目指す「ゴール」を設定し、共有されていること
  - ・必要な情報が共有されていること
  - ・一人一人に役目が与えられていること
- 職員室を笑顔にするために、次の5つを実践したい。
- ・朝の打ち合わせを毎日行い、Good&Newを実施したい。
  - ・「この学校」ではなく「うちの学校」という表現で話をしたい。
  - ・ダメな話で終始するのではなく、ダメをどうするかを話題にしたい。
  - ・業務改善をしたい。(空き時間の使い方、仕事の優先順位、ワークバランス)
  - ・職員室内の情報を大切に扱いたい。(原則職員室内に業者等を入れない)
- 不祥事根絶に、全職員で取り組みたい。
- ・不適切な指導(体罰)について
  - ・ワイセツ・セクハラについて
  - ・飲酒について
  - ・個人情報の取り扱いについて
  - ・金銭の取り扱いについて
  - ・調査書誤記載について